ヘラシギ　*Eurynorhynchus pygmeus* (Linnaeus)

【選定理由】

世界で最も絶滅の危機に瀕しているシギの１種である。1980 年代まで県内には毎年、あるいは数年に一度の頻度で飛来していた。主に秋の渡りで 1～数羽の幼鳥が飛来していたが、その後飛来頻度が大きく低下して、2013 年以降の記録がなくなっている。

【形　態】

全長約 15cm。特徴的なヘラ状の嘴を持つ。新鮮な夏羽の肩羽は赤褐色で、黒い軸斑があり、白い羽縁がある。顔から胸も赤褐色で、頭と胸の羽にも黒い軸斑がある。冬羽は上面が一様な灰色で、下面は白い。幼羽は、頭上から上面に黒斑があり、頸、胸、下面は白色で目先から頬にかけて褐色の斑がある。

愛知県西尾市, 2004 年 9 月 28 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りの季節に伊勢・三河湾の沿岸にある干潟や、干拓地や埋立地にある汽水や淡水の湿地に飛来する。

【国内の分布】

春秋の渡りの季節に国内全域の沿岸部に飛来するが、越冬の記録もある。

【世界の分布】

シベリアの東端からカムチャツカ半島北端の狭い範囲で繁殖し、冬期は中国南東部の一部や、ベトナム北部、タイ、ミャンマー、バングラデッシュなどの沿岸部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

干潟や干拓地、埋立地など、塩水から汽水、淡水の湿地に飛来する。他のシギ類の群と行動を共にすることが多く、ヘラ状の嘴を左右に振る独特な採餌方法をとる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の記録は三河地方の沿岸部に集中しており、秋の渡りでの幼鳥の記録が大半であるが、春に成鳥の記録も少数ある。以前は県内で毎年のように記録され、4 羽の群れが観察された例もあるが、1988 年以降は飛来記録が激減しており、2012 年 9 月に海部郡飛島村で幼鳥 1 羽が観察されたものが最新の記録である。減少の要因として、世界的な生息数減少の他に、県内では干潟面積の減少と、後背地である干拓地や埋立地から汽水や淡水の湿地が消失していることがあげられる。

【保全上の留意点】

本種のみならずシギ・チドリ類全般の保全をするためには、現在残されている干潟の環境問題を改善し、干拓地や埋立地等に残されている汽水や淡水の湿地環境を保全すると共に、干拓地や埋立地の遊休部分に汽水や淡水の湿地環境を復元する努力が必要である。

【特記事項】

国際湿地連合の 2002 年までの見解では、本種の推定最小個体数は 4,000～6,000 羽と見積もられていたが､2003 年には 3,000 羽以下と修正されており､バードライフインターナショナルによると、2019 年の時点で世界中の繁殖数は 200 ペア程度と推測している。渡りの中継地や越冬地である干潟や湿地の環境破壊、中国を含む東南アジアでのカスミ網による密漁が激減の要因とされており、絶滅への加速が危惧されている。

本種は、種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

真木広造･大西敏一･五百澤日丸, 2014. 決定版 日本の野鳥 650, p.289. 平凡社, 東京.

（高橋伸夫）